

道有林におけるコスジオビハマキの 発生状況と今後の予想（1973年）

上 条 一 昭 東 浦 康 友

5年前から林務署にハマキガの生息調査をお願いするようになってから、コスジオビハマキの発生の動向は、毎年広範囲にかなりの確につかめるようになり、これにもとづいて発生予想がたてられるようになった（光珠内季報 10号，1971年；14号，1972年）。

昨年までの発生経過をみると、全般に1970～71年をピークとしてコスジオビハマキの数が減りはじめ、林分全体が赤変するような激害はみられなくなった。ただ、留萌、新十津川、月形、当別など暑寒別の山塊周辺で数の増加しているところがあって、昨年5月末には当別町の

表-1 道有林ハマキガ生息数調査結果（1973年6月実施）

種 名 林務署名 林班名	コス ジオ ビ ハマ キ	ト ウ ヒ オ オ ハマ キ	タ テ ス ジ ハ マ キ 類	モ ミ ア ト キ ハ マ キ 類	ト ド マ ツ ア ミ メ ハ マ キ	ト ド マ ツ メ ム シ ガ	ト ド マ ツ チ ビ ハ マ キ	そ の 他 の ハ マ キ ガ 類	ハ マ キ ガ 類 合 計
	美深 1林班 39林班	0.23 0.35	0.03 0	0.06 0	0.15 0.03	0.13 1.15	1.58 4.23	0.03 0.15	0.03 0.03
名寄 11林班 54林班	0.61 0.30	0.03 0.05	0 0	0.06 0	2.95 0.43	0.67 0.63	0 0.08	0 0.03	4.64 1.50
留萌 90林班	0.33	0.05	0	0	0.08	0.15	0	0.05	0.65
旭川 73林班 79林班	3.45 5.07	0.05 0.15	0.05 0.25	0.33 0.17	6.60 4.87	0.25 1.18	0.25 0.32	0.03 0	11.00 12.06
滝川 36林班 139林班	2.08 0.60	0.03 0.03	0.03 0	0.08 0.08	1.08 0.65	0.98 0.28	0.25 0.18	0 0	4.50 1.80
岩見沢 4林班 79林班	1.23 3.23	0 0	0.03 0	0 1.55	0.38 0.33	0.15 0.03	0 0.25	0.03 0	1.80 5.38
当別 28林班	0.38	0	0.06	1.18	10.9	7.23	0.20	0	19.93
函館 80林班	0.38	0	0	0	0	0	0	0	0.38

注 数値は50cmの枝1本あたりの個体数

民有林 60ha にヘリコプターで薬剤を散布している。

今年の調査は昨年と同じく 8 林務署 13 林分で、6 月 14 日前後に行なわれた。今シーズンの気候は 6 月から 7 月にかけて極端に雨量が少なく、乾燥した日が続いたが、5 月の発育初期の低温のために、ハマキガの生長は例年並か、ややおくれ気味で、6 月 14 日頃の幼虫は 6 齢（終齢）初期のものが多く、調査時期としては一番よい時期であった。

さて今年のコスジオビハマキの発生の傾向は図-1 から一見してわかるように、岩見沢 79 林班以外では、どの林分でも急激に減少し、1 枝当りの数が 1 匹をはるかに割っているところ

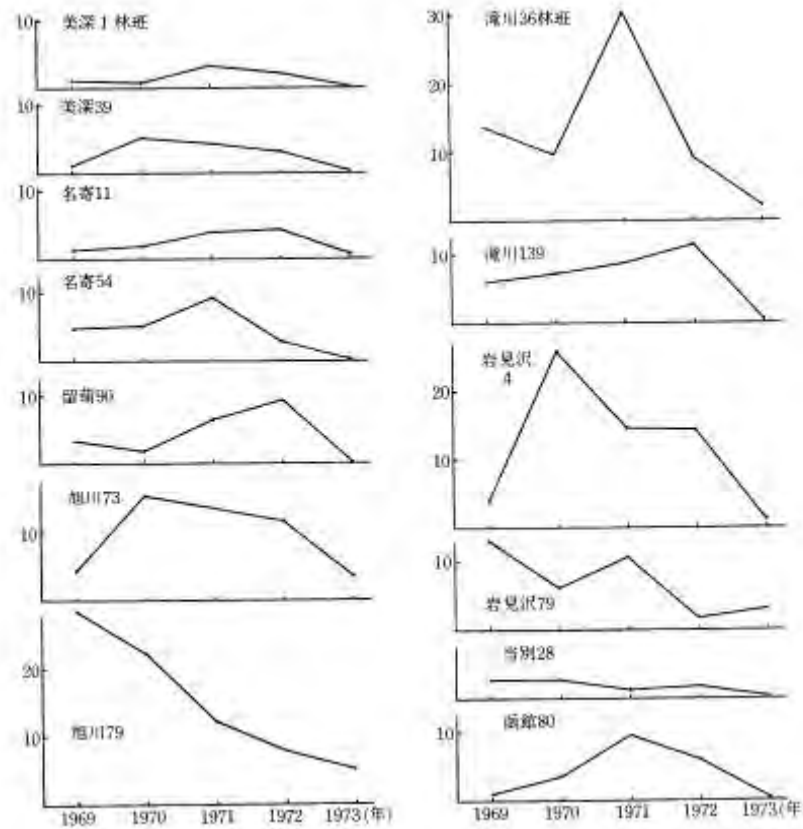


図-1 コスジオビハマキの個体数の変動（1969～1973年）

個体数は 50 cm の枝 1 本あたりの数である。なお、美深 39 林班、名寄 11、54 林班 旭川 73 林班では 1968 年に薬剤散布を行っている。

が多い。旭川の 73 林班や 79 林班など、まだやや数の多いところが残っているが、あと 1～2 年のうちには全地域で大発生は完全に終るとみてよいだろう。はじめてハマキガの発生が発見された頃、この発生は 10 年前後はつづくだろうと予想したのがほぼ的中したようである。

ただ、ここで気になるのは、旭川と当別でトドマツアミメハマキが増加していることで、と

くに当別ではトドマツメムシガも増えているので、ハマキガ全体の合計数は最高（19.9匹）となっている。しかし、この2種のハマキガは毎年の変動が割合激しい種類であって、たとえば昨年、美深や名寄でも増加したが今年は減少している。したがって、このまま来年以降ずっと数が増えて大きな害を与えるようになるとは思えない。

昨年、旭川と芦別（滝川 36 林班）のコスジオビハマキにはじめて病気が発生したことを報告した。国の林業試験場で、害虫の病気を研究している片桐一正氏に調べていただいたところ、エントモボックスウィルス病の1種で、日本からはこの病気は今まで知られていなかったという。終齢幼虫から蛹にかけて発病し、幼虫は黄色くなって、ぐったりとのびてしまう。今年ほどのくらいの個体がやられるか興味があったが、あまり流行した様子はなく、芦別で病死した幼虫がよく目についた程度であった。

（昆虫野兎鼠科）